

中高生への投資教育を考える

1 現状と課題

現状

- 現代社会は急速に情報化が進み、多様な価値社会が形成されている。急速な時代変遷の中で、中高校生が情報や環境を主体的に選択し活用していくことが困難な状況にあると推測されている。
- 時間に追われる生活の中で、身の回りの興味のあること、やりたいことにも没頭できずにいる中高校生が増えている。

課題

- 中高生は、学校、進路、情報社会等の中で多くの課題にぶつかり、判断や意思決定を要求される。そうした場では、主体的に選択する意識基盤を育成していくことが必要とされる。
- 中高生が進むべき方向性を検討しそれを獲得するためには、様々な分野や場面で生じている事象を分析し、必要とする価値は何であるのか、その価値を効率的に得るためには何を準備し、何に集中していくことがよいのかを試行錯誤する能力が必要となる。
- 例えば、一人一人が住んでいる地域には多くの魅力的な資源が存在するが、その多くが気づかれずに放置された状態にある。多感な感性とエネルギーを有す中高生が、これらの地域の魅力を発見し、付加価値を高め、経済活動活性化につなげていくためには、どこに価値を見出し、何に集中的に取り組んでいけばよいかを気づかせるような教育も必要とされる。
- 学校教育では、一人一人の生徒が目標を持ち、その目標のためにどのような手段を選択するのかを問いかけ、試行錯誤をさせ、何度でもチャレンジしていけるように動機づけを行っていくことが求められる。こうした教育実践の場での有力な方法として投資教育が挙げられる。

2 中高生への投資教育推進のねらい

好奇心を育て、意識を変革させる教育

●子供たちにとって、現代の情報化社会の中で、さまざまな方面へ自由な好奇心を持ちながら意欲的に生活をするとともに、知識の基を幅広く堅牢に備えることができる教育が必要である。特に、将来を担う中高生には、主体的に考え、必要な価値を見出し、自ら進むべき方向性を検討していけるような教育の場を提供していくことが必要とされる。

●AIの研究開発が加速することで、技術的な進化により、2045年にはシンギュラリティ (Singularity) が創出されると注目される中、意識を変革させる教育も必要とされている。

生徒たちの生きる力をサポート

●生徒たちが生活の中で好奇心を育て、なぜそうなるのかという問いかけの繰り返しから意識が変革され、喜びのうちに知恵を得、より深い学びへとつなげていけるように、生徒たちの生きる力をサポートしていくことが必要となる。

●例えば、我が国は豊かな広葉樹林の森や微生物が豊富な土によって生き物を潤す豊かな水が生まれ、それによって日本古来の食材や醤油、味噌、酒などの発酵技術も生まれた歴史を持っている。生徒たちが自分を育成した自然資源、そこから生まれた人間の知恵と技術の変遷への好奇心を培い、地域ごとの文化、くらし、産物、特徴が生まれ、人や物、お金の流れの中から地域の経済活動が生まれ、地域の発展につながっていることなど、世の中の仕組みを学ぶことは生きる力となる。

生徒たちの視点を変える教育

●学校教育では、生徒一人一人が既成にとられずに、自由な発想で目標を持ち、試行錯誤しながら凌駕、超越し、視点を変えることで、新たなものを産みだしていけるような教育環境が求められている。

●地域の発展を見据えるならば、地域の魅力や課題を発見し、どのような分野を重点的に改善・強化していくことが有効なのかが重要となり、チャレンジする分野としては、人材面、技術面、資源面、金融面など、地域の課題に応じて様々な分野が考えられる。こうした分野に、中高生が自由なアイデアで取り組んでいくことが、大人達の意識を変え、地域を変革していくことにつながる。

●投資教育は、生徒自身が夢を抱き、それを実現していくために、どのような分野に知恵と力を注げばよいのか、それを判断する能力を育成し、生徒達の視点を変える有効な手段となる。

3 投資教育のカリキュラム案

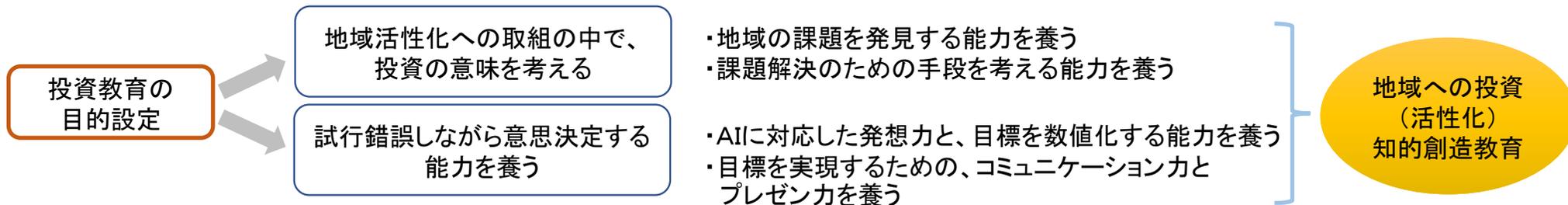
3-1 投資教育の目的を設定する

第1に、投資とは何か、地域を活性させるために何に投資すべきかを考えさせる。

そのためには、生徒たちに対して自分の生まれ育った自然資源やそこから生まれた人間の知恵と伝統的技術の変遷、また、他の地域でも同じような取組が行われ、地域ごとの文化、くらし、産物などの特徴が生まれ、経済活動が生じることで地域の発展につながっている社会のシステムを知らせ、どのような分野に投資すること(人への投資(人材育成)、健康への投資、環境への投資、金融投資、地域資源への投資など)が、地域活性に有効なのかを考えさせるカリキュラムとする。

第2に、生徒一人一人の意見と好奇心が縛られることの無い時間を創り、生きていくうえで何が重要であるかを考えさせ、意思決定する能力を養う。5Gなど高度な情報化が進展する中で、これから予想される社会のしくみに現在の学びが自分の将来設計にどのようにつながっていくのかを考えさせ、自分のやりたいことや夢に集中を促し、プログラミングを活用してライフプランをシミュレーションし、リスク管理しながら何度でも試行錯誤し意思決定していける、知的創造教育につながるカリキュラムとする。

これらを通して、自分の夢を実現するために何に投資することが適切かを考え知的させる。



3-2 中高生用の投資教育カリキュラムを作成する（想定する授業形態）

想定する科目	授業形態	授業時間数
総合的学習の時間 (中高生)	<ul style="list-style-type: none"> ●投資の意味、目的を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・投資教育の意味、目的を学ぶ。 ・将来のライフプランを考え、自分の夢を実現していくために、何に投資することが有効か、投資の対象を学ぶ（人材投資、健康投資、教育投資、環境投資、金融投資、地域経済投資等）。 ●金融投資基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動における金融のしくみと投資への理解、投資方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室内学習：2コマ ●金融投資基礎：2コマ
社会科・地理歴史科 (中高生)	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活性化を考える中で地域への投資を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を分析する取組の中で、地域固有の産業を対象として、歴史や産業のしくみ、価値を発見し、さらに付加価値を高めるためのアイデアや産業活動の改善方策を検討する。 （東北地域ならではの伝統的産業や農林水産業の継承、観光産業等をターゲットとする） ・地域産業を育成し、持続的にビジネス展開していくための課題は何か、人材投資や技術投資、そのための資金計画をどうするのか、などの関係を学ぶ。 ●体験学習：地域の伝統的産業分野の協力を仰ぎ、現場での見聞と実地体験 <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的産業として、匠の技を継承している分野、酒造分野、酪農分野等が想定される。 ・地域産業資源の価値の発見、事業継続のための付加価値強化の方法など、社会的資源への投資や投資方法を学ぶ。 ・総合的学習の時間で学んだ金融投資の応用編として地域経済投資への実践方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活性化：3コマ ●体験学習：3コマ
プログラミング教育 (中高生)	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラミング教育の先行的取組 <ul style="list-style-type: none"> ・中高生へのプログラミング教育は2021～2022年と言われており、先駆けとしての授業を実施する。 ・ライフプランの設計や金融投資の演習として、プログラミング教育を活用する。 <p>* プログラミング教育の実践は、社会の様々な課題を解決したり、ライフプランのシミュレーションを検討することが可能となり、AIに対応した投資教育の共通言語として有効なスキルとなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラミング演習：3コマ

想定する科目	授業形態	授業時間数
数学 (中高生)	<ul style="list-style-type: none"> ●室内学習 ・数学は問題解決力や想像力の源であり、教科の中で、投資の理論、方法を学ぶ。 ・投資理論、リスク管理理論 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の中で部分的に理論を解説
理科 (中高生)	<ul style="list-style-type: none"> ●室内学習 ・地域固有の産業と、森・土・水など地域の自然的事象とのかかわりを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の中で部分的に理論を解説

4 モデル地域における投資教育の実践

●モデル校の選定

- ・モデル校の選定(復興地域やその他地域)
- ・教育委員会、学校(教員)への教育啓発
(教育テーマ、教科、期間、実施担当者の設定)

●出前授業等モデル実施校の選定

- 投資教育の方向性、内容等について相互確認
- 授業の実施体制の検討
- 授業実施スケジュールの検討

●モデル授業での実践

- ・モデル授業実践支援員の選定
- ・中高校への授業実践(総合的学習の時間、社会、数学、理科、プログラミング教育等)

●授業実施支援員の確保

(大学、有識者、証券会社、他)

●授業内容の確定

●授業支援の実施

- ・授業で活用する事例紹介、ワークショップ開催、体験学習・インターン自薦の運営
- ・金融投資の講義、

●授業実践の成果確認と課題分析、カリキュラムの改善

- ・投資教育の方向性について検証
- ・カリキュラム、授業方法等の検証と改善点分析

●モデル授業実施の検証

●カリキュラムの検証

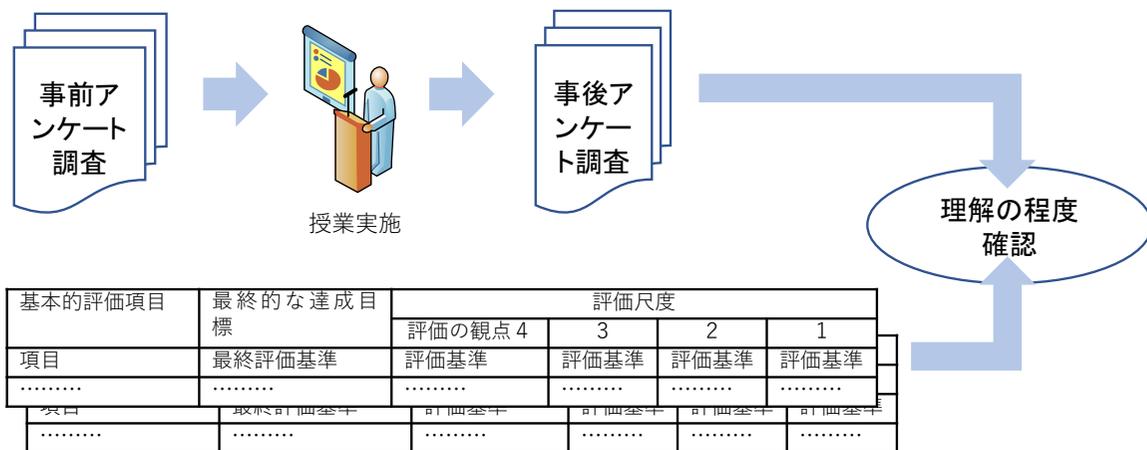
●投資教育の方向性について再確認

●カリキュラムの改善策検討

5 投資教育実践の成果確認と改善案の検討

5-1 アンケート調査、ルーブリックによる確認

○中高生徒への投資教育実践の成果について、事業実施前後のアンケート調査、及び指導教員によるルーブリックにより確認する。



5-2 改善案の検討

○投資教育の方向性、カリキュラム、授業方法等の検証と課題を分析し、改善点を整理する。

6 投資教育の成果

●「主体的な取組による自己肯定感の向上」

中高生が生き方を主体的に考え、自分にとって必要な価値を見出しながら、何に投資することが自分の将来に有効となるかを考えることができ、自己肯定感の向上にもつながる。

●「地域への関心が向上し大人たちの意識を変革させる」

中高生が自分の将来を考える中で、地域の自然資源や歴史文化等の魅力や価値を発見し、地域の経済活動にも関心を持つようになる。また、学びへの選択肢が増えることで生徒たちの好奇心がさらに膨らむ。中高生のこうした変化が大人たちの意識をも変革させ地域全体の活性化につながる。

●「将来の夢実現に向けた学びへの希求が生じる」

モデル校で実践された投資教育が他地域にも広がり、様々な地域らしさのある投資教育の成果がまとめられると共に、全国の中高生が誰でも参加できる学びと体験の場を提供することで、これまでよりも地に足のついた学びへの希求が芽生え、学びへの意欲も向上すると考えられる。